

消 防 の 沿 革

昭和46年	6月	遠野地区消防事務組合庁舎建築工事着工（敷地面積 1,897 m ² ）
昭和47年	2月	遠野地区消防事務組合庁舎完成（庁舎面積 757.58 m ² ）
昭和48年	4月	遠野地区消防事務組合発足（1消防本部・1消防署・1分署） 管理者に遠野市長工藤千蔵、消防長に堀切重五郎が就任 消防職員 36名（新採用 11名）
	6月	宮守分署に救急自動車（2B型）を配置
	7月	遠野消防署宮守分署庁舎建築工事着工（敷地面積 550.00 m ² ）
	8月	職員 2名増員（消防職員 38名）
	11月	遠野消防署宮守分署庁舎完成（庁舎面積 211.90 m ² ）
	12月	宮守分署業務開始 職員 9名・消防ポンプ自動車 1台・救急自動車（2B型） 無線基地局 1基・移動局 2基
	昭和49年	3月
4月		職員 4名増員（消防職員 42名）
昭和50年	3月	消防本部 2課 4係に改組 総務課（庶務係・経理係） 消防課（予防係・警防係）
	4月	第 2代消防長に遠野市長工藤千蔵（消防長事務取扱）が就任 職員 1名増員（消防職員 43名）
	9月	遠野消防署に救急自動車（2B型）を更新配置
	10月	第 3代消防長に瀬川権太郎が就任
昭和51年	9月	消防本部に広報車を更新配置
昭和52年	4月	職員 1名増員（消防職員 44名）
昭和53年	10月	消防本部に防火広報車を配置
昭和54年	3月	職員定数条例を 42名とする。（消防吏員 41外）
	4月	職員 4名採用
	10月	職員定数条例を 44名とする。（消防吏員 43外）
昭和55年	4月	第 4代消防長に三嶋敏明が就任 職員 3名採用
	8月	消防本部に司令車を更新配置
	12月	岩手県防災行政無線完成、消防本部に端末局設置 職員定数条例を 46名とする。（消防吏員 45外）
昭和56年	4月	第 5代消防長に遠野市助役及川増雄（消防長事務取扱）が就任 職員 2名採用
昭和57年	4月	第 2代管理者に遠野市長小原正巳が就任
	7月	第 6代消防長（消防長心得）に菊池 信が就任
	8月	遠野消防署に水槽付消防ポンプ自動車（ 型）を更新配置

昭和58年	8月	第7代消防長に遠野市助役梅田収得（消防長事務取扱）が就任 宮守分署に救急車（2B型）を更新配置
昭和59年	4月 7月 8月	第8代消防長に菊池 勉が就任 職員3名採用 消防本部に広報車を更新配置
昭和60年	9月	消防本部に査察広報車を更新配置
昭和61年	3月	遠野消防署に救急車（2B型）を更新配置
昭和61年	6月 9月	第9代消防長に千葉富三が就任 遠野消防署に消防ポンプ自動車1台（BD-型）を更新配置
昭和63年	3月 4月 11月	遠野地区消防事務組合本部設置15周年記念式典 当直勤務3部制を実施 自治体消防制度40周年記念誌 遠野郷消防総監「絆」発行
平成元年	4月	第10代消防長に山蔭敬二が就任 消防緊急情報システム（同報系）災害弱者緊急通報システム設置 職員1名採用
平成2年	4月	職員1名採用（消防職員45名）
平成3年	4月 6月 11月 12月	第11代消防長に佐々木一彦が就任 職員1名採用（消防職員45名） 消防本部に消防次長職を設置 消防本部の防火広報車を更新配置 遠野消防署の査察広報車を更新配置 宮守分署に消防ポンプ自動車（CD-I型）を更新配置
平成4年	3月 4月 6月 12月	消防指揮車を配置 第12代消防長に佐々木光一が就任 職員1名採用（消防職員45名） 職員定数条例を47人とする。 （消防吏員46人・消防吏員以外の消防職員1人） 完全週休2日制（週40時間）実施
平成5年	2月 4月 9月 10月 11月 12月	患者監視装置を救急車（遠野）に搭載（救急業務高度化推進） 職員1名増員（職員2名採用・消防職員47名） 消防本部災害活動組織を明確化し災害時の体制を強化する。 職員定数条例を48人とする。 （消防吏員47人・消防吏員以外の消防職員1人） （財）日本消防協会より山間地仕様救急車受納、宮守分署に配置 患者監視装置を救急車（宮守）に搭載（救急業務高度化推進） 消防署に消防無線車（現場指揮隊）を配置
平成6年	4月 7月 8月	第3代管理者に遠野市長菊池 正が就任 第13代消防長遠野市助役中居健雄（消防長事務取扱）が就任 職員1名増員（職員1名採用・消防職員48名） 職員定数条例を49人とする。 （消防吏員47人・消防吏員以外の消防職員1人） 消防本部に災害時現場指揮所 多数傷病者の収容を目的としたエアータントを配備

	9月	遠野消防署に消防ポンプ自動車1台(CD-型)を更新配置
	10月	消防本部に指揮支援用司令広報車を配置
平成7年	3月	応急救護処置普及資器材を整備し、住民の救急指導の促進 自動心マッサージ機等を装備し、応急処置9項目の完全実施を図る
	4月	第14代消防長に田代春男が就任 職員1名増員(職員3名採用・消防職員49名)
	9月	平成7年度岩手県総合防災訓練(会場:遠野市)
	10月	緊急消防援助隊組織に編入(消火部隊)
平成8年	4月	遠野消防署に高規格救急車を配置・救急救命士による高度救急隊運用開始
	9月	宮守分署一部改築工事完了
	10月	職員定数条例を51人とする。 (消防吏員50人・消防吏員以外の消防職員1人)
		平成8年遠野市総合防災訓練
平成9年	4月	職員1名増員(職員1名採用・宮守村派遣職員1名任用・消防職員50人)
	9月	職員定数条例を52人とする。 (消防吏員51人・消防吏員以外の消防職員1人)
平成10年	1月	救助工作車(型)を導入
	4月	職員2名増員(職員2名採用・消防職員52名) 遠野消防署に救助工作車を配備、運用開始 岩手県防災航空隊へ職員1名派遣
	6月	自治体消防制度50周年記念誌「愛郷」発行
	10月	職員定数条例を53人とする。 (消防吏員52人・消防吏員以外の消防職員1人)
平成11年	3月	宮守分署に指揮広報車を配置
	4月	第15代消防長に菊池年が就任 職員1名増員(職員1名採用・消防職員53名)
	6月	災害弱者緊急通報システムセンター装置更新
	10月	遠野消防署に水槽付消防ポンプ自動車(型)を更新配置
平成12年	4月	消防本部2課5係 遠野消防署3係に改組 総務課(庶務係・消防係) 消防課(警防係・予防係・保安指導係) 遠野消防署(警防係・予防係・救急救助係) 職員1名採用
平成13年	3月	宮守分署に高規格救急車を配置・運用開始
	4月	第16代消防長に白金久四郎が就任
平成14年	1月	平成13年度1.17合同防災訓練(会場:遠野市)
	4月	第4代管理者に遠野市長本田敏秋が就任 第17代消防長に松本武則(消防長心得)が就任 職員1名採用
平成15年	2月	遠野消防署に消防ポンプ自動車(CD-型)を更新配置
	4月	第18代消防長に照井公一が就任 職員2名採用 遠野市の機構改革に合わせて消防本部総務課庶務係を総務課に改め、 消防課保安指導係を廃止する 遠野地区消防事務組合発足30周年

	7月	遠野地区消防事務組合発足30周年記念式典
平成16年	3月	遠野消防署に非常用救急車を更新し高規格救急車を配置
	4月	職員1名採用
	11月	遠野消防署に査察広報車を更新配置
平成17年	3月	遠野消防署に消防ポンプ自動車(CD- 型)を更新配置
	4月	第19代消防長に菊池長一郎が就任 職員1名採用
	9月	消防事務組合解散
平成17年	10月	遠野市と宮守村が合併し遠野市となる。 遠野市消防本部発足(1消防本部、1消防署、1出張所) 消防総務課2係(総務係・防災係) 保安施設課2係(保安情報係・施設管理係) 遠野消防署3係(予防係・警防係・消防団係)
	11月	遠野市消防団が遠野市遠野消防団、宮守村消防団が遠野市宮守消防団となる。 携帯電話119番直接受信方式運用開始
平成18年	4月	岩手県から産業保安に関することの権限を委譲される。
	6月	国民保護法に関する遠野市条例が制定される。
	12月	第1回遠野市国民保護協議会
平成19年	3月	仙人峠道路供用開始に伴う3消防本部合同防災訓練 遠野市遠野消防団・宮守消防団団旗返納式
	4月	第2代消防長に菊池 守が就任 職員1名採用 消防本部内に遠野市防災センター整備室が設置される。 岩手県防災航空隊に職員1名派遣 遠野市遠野消防団、遠野市宮守消防団が統合し遠野市消防団となる。
	6月	遠野市消防団結団式
	9月	岩手県総合防災訓練(主会場：遠野市)
	11月	三陸地域地震災害後方支援拠点施設整備推進協議会が設立される。
	1月	宮守出張所に消防ポンプ自動車(CD- 型)を更新配置
	3月	遠野消防署に防火広報車を更新配置
平成20年	4月	職員2名採用
	3月	県立中部病院運営開始前救急収容訓練
平成21年	4月	第3代消防長に奥寺啓蔵が就任 職員3名採用